

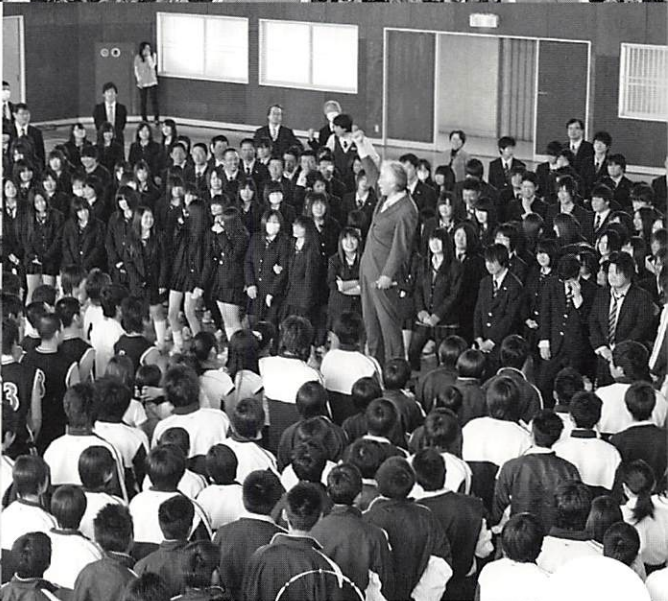
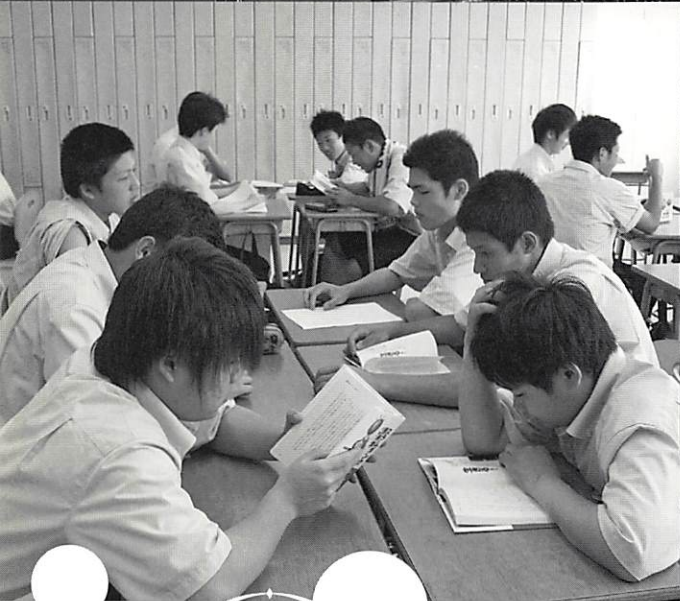
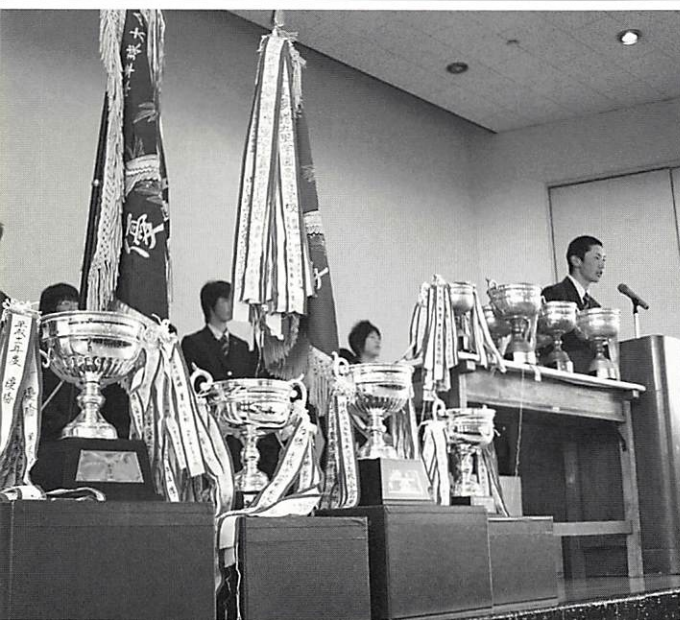
学 園 通 信



No. 247

九里学園高等学校 P T A

2011.7.21 発行



● 特 集

「九里学園・先生紹介」

礼 讓



今行わなければならない教育は…

学校長 九里 廣 志

「想定外」と言う言葉が、三月十一日以後盛んに使われるようになりました。「震度の大きさ」や「津波の高さ」そして、「津波による原発の電源が確保できなくなったこと」など、とにかく防災でできなかつたことにはこの言葉が「キー」となつたのです。だが果たしてそうなのかという声は、あちらこちらから聞こえてきています。

確かに、今回の地震の大きさや津波の高さは、歴史的なものであつたといわれています。しかし、このような地震や津波の高さが存在するということは、歴史が証明しています。今回のような状況を「想定内」とすることを怠つた、「人の判断力」のほうの問題だつたといわざるを得ないのです。防波堤をもっと高くすることを、津波の被害を少なくするための高台移住を、そしていつまでも人々を不安に陥れている原発の地震対策

を、「人間の命」より「経済的理由」を優先してしまつた人間の判断。ここが、今一番問われているところなのだろうと思います。

私にも大きな反省があります。中越沖地震が刈羽崎原発に大きな被害をもたらした時、私は『九里学園の教育』で、「放射能汚染によって、将来にわたつて人々に不安をもたらす可能性のある原発は、地震大国である日本にはあつてはならないものだ」という内容の文を書きました。今まさにこのことが現実のこととなつて、福島を、そして日本を、いや、世界までをも巻き込んでいます。しかし、その文の中で私は「津波」に一言も触れていないのでした。多くの水を必要とする原発が、海岸線に建設されているのだから、当然のこととして、『津波による危険性についての意見』を述べなければならぬはずなのでした。刈羽

崎原発からいただいたきた資料にも、津波に対する防災については載つていたのに、山国育ちの私にはまるでそのような怖さも意識も無かつたのでした。

いくらマスコミで「この程度の被爆は大丈夫」といっても、日ごとに募る不安は、特に将来のある小さな子供を抱えた親たちへのしかり、福島島の地から避難する人々を増加させています。このままでは『福島』は、人の住まない第二のチェルノブイリとなるおそれがあります。人々の全ての能力を傾けて、今の難局を乗り越えてゆきたいものです。

これから生きる者たちには、本当に確かな知力、判断力、行動力を身につけ、責任を果たす人間にする教育をしなければならぬと思つています。保護者の方々もご協力お願いします。

《一学年》



学年主任
富樫 宏之
保健体育科
男子バスケットボール部

特別な意味

【「ころ」は誰にも見えないけれど「ころづかい」は見えない。「思い」は見えないけれど「思いやり」は誰にでも見える】というCMが震災後テレビで頻繁に流れ、なるほど！と唸(うな)つてしまいました。ネットで検索したところ、宮沢章二さんという詩人が「行為の意味」という本に次のように記されています。

【「心」は「心遣い」は見えない。「思い」は「思いやり」は見えない。あたたかい心も、やさしい思いも、行いによつてはじめて見える】・・・と。なるほど！と感じると同時に色々考えさせられる一文です。

特別な意味を持つ一年。今、自分がすべきこと、できることにしっかりと向き合い、生活していきましょう。



副主任
井澤 治
理科
吹奏楽部



一組 (生徒募集課長)
高橋 左和明
保健体育科
硬式野球部



二組
佐藤 源太郎
家庭科
硬式野球部



三組
園田 直子
国語科
硬式野球部



四組
鈴木 幸英
社会科
女子バスケットボール部



五組
高橋 元樹
理科
JRC・生活科学部



六組
片平 淳
数学科
硬式テニス部



副担任
鈴木 淳子
国語科
演劇部



副担任
本田 米子
保健体育科
陸上競技部



副担任
遠藤 愛
数学科



教頭
笹原 裕一
社会科



事務長
栗林 雄二



総務課長
小山田 努
商業・情報科
ソフトボール部



教育内容充実課長
上村 英俊
国語科
文芸・イラスト・文芸委員会



生徒指導課長
大滝 勤
社会科
卓球部

《二年生》



学年主任

高木 ユキエ

保健体育科
バドミントン部

実力を付ける年

二年生は、今年度一年かけて実力を付け、来年の最終学年で、自分の目指す進路に進めるようにしなければなりません。そのためには、教員一同、昨年同様より生徒理解に努め、進路決定のアドバイスをしています。一口に、進路決定と言っても、ただ目指す大学・会社等を決めれば良いというものではありません。生徒一人ひとりの持つ良さをふまえ、伸ばしながらも、弱い所を強化していかなければなりません。その弱点も様々ですから私達も様々な活動を通して強くしていきます。

生活リズムを改善していき、学習時間の確保を一緒に考えたり、すぐあきらめてしまう心を、クラスの中で、部活動の中で鍛えたり、校是である礼と讓、協同和楽をいつも意識させ、九里生らしい人間味豊かな人に育てたりしています。

また、二年生のPTAは活発で部長の高梨さんを始めとするPTA役員の方々が、とても積極的に理想的なチームワークが築けていますので、保護者の方々と手を携えて子供達を育てていきます。一年次同様、失敗を恐れずチャレンジして実力を付けていきます。二年生、明るい未来に向かって突き進め!!



副主任(独自教育推進課長)

福崎 正史

社会科
弓道部

一組(生徒会指導課長)

岩谷 義彦

社会科



二組

遠藤 健

英語科
硬式テニス部

三組

原田 隆弘

保健体育科
陸上競技部

四組

定免 文

英語科
英語部

五組

長谷川 和美

家庭科
JRC・生活科学部

六組

吉田 貴美子

保健体育科
バレーボール部

七組(国際交流課長)

鈴木 精

国語科
サッカー部

副担任

豊嶋 達也

数学科
PC愛好会

副担任

長岡 直浩

芸術科
美術部

就職指導課長補佐

五島 訓二

保健体育科



養護教諭

齋藤 久美子

養教科



図書館司書

遠藤 千沙子



事務

齋藤 妙子



事務

佐藤 貞雄

スキー部

《三学年》



学年主任
遠藤 英
社会科
書道部

「旅立ち」を前に

この学年の三年間のモットーは「未来の大人」です。つまり、「大人」基準で考え、評価し、行動すること。全体でとくに頑張ったのは、「礼」と「譲」の体現、生活習慣と社会性の向上、自治力の向上、進路希望の実現。もちろん個人差もあり、全体としてデコボコもあつて、個性あふれる生徒の集合体ですが、集団で行動するときに見せる仲間としての結束力や自発的な行動力は、この学年の大きな長所だと思います。三年生になつて今いよいよ進路の現実に向ふし、個々の未熟な部分や厳しい現実を思い知らされる毎日となりました。しかし、社会の大きな転換期に入った日本において、十年先、二十年先まで確かな人など誰もいないことを考えれば、「礼」「譲」の教育を受け、仲間を大切に、協力し合い助け合つて自ら行動できる力こそが、「生きる力」につながつていくつてくれるものと思つています。覚悟を決めて、絆を大切に、一歩一歩進んでいきましょう。



一組
中山 大輔
理科
バドミントン部



二組・副主任
佐藤 秀人
数学科
サッカー部



三組
佐藤 健太
英語科
ソフトボール部



四組
鈴木 涼子
国語・書道科
ダンス部



五組
根津 利栄
芸術科
吹奏楽部



六組
横山 明良
英語科
剣道部・スキー部



副担任(進路指導課長)
熊澤 広二
商業・情報科



副担任
町田 悦子
国語科
茶道部

《講師》

横澤和子(国語科)
上村匡子(国語科)
小嶋俊之(国語科)
神尾慶蔵(数学科)
我妻孝浩(数学科)
藤巻芳子(理科)
落合重忠(理科)
小野弘子(芸術科)
武田智子(芸術科)

大木善子(英語科)
小野藤子(英語科)
今井コレット(英語科)
中村眞樹子(家庭科)
佐久間美樹子(家庭科)
荒井雄介(薬・情報)
小林憲枝(英語科)
米野裕子(英語科)



事務
今井 敏博



事務
保士沢 和美
硬式野球部



事務
木村 淳一郎

日本の未来!

PTA会長 金子 和幸

二〇一一年三月十一日午後十四時四十六分に起こった超巨大地震。それに伴って発生した津波と原発事故は未曾有の被害を巻き起こしています。私たちPTA会員のご家族、友人、知人の方にも災害が及んでしまっています。心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

PTA総会のなかで富樫先生からもありましたが、ある避難所で老人が「これからどうなるんだろう」と漏らしたとき、横にいた高校生の男子が「大丈夫、大人になったら僕らが絶対に元にもどします」と老人の背中をさすりながら言ったそうです。

日本の未来がまさしく、そこにあります。なにより大切なことは、「未来に対して夢をもつことだす」

九里学園での高校生活「夢を見つける」「夢を育てる」「夢を咲かせる」力を身につけてほしいと思います。

今回の「学園通信」よりPTAへのご意見・ご要望の連絡先を載せさせて頂きました。皆様方からの様々なご意見をお寄せください。

紳士たれ

二学年部会長 高梨 進

「Boys Be Ambitious: 少年よ大志を抱け」の名言で有名なクラーク博士が、札幌農学校(現北海道大学)の実質的な初代校長に招聘されて赴任したとき、北海道開拓使長官からくどくどと幾条もの条項を書き並べた学則案を見せられて、即座に「多過ぎる。一条あればよい」と答えたという。その一条というのは「Be Gentleman: 紳士たれ」

という言葉だったそうである。クラーク博士の言う紳士とは「紳士たる者、定められた規則を守ることは言うまでもない。しかし、それは規則に縛られて行動することではなく自己の良心に従って行動すべきものである」ということである。

学生にしてみれば、手取り足取り教えて貰った方が楽だが何を為すべきで、何を為すべきでないかを自分自身で結論を出すというのは一見自由に見えて、かえって厳しい教育であったらと推測する。教育の不毛が叫ばれている今、社会が最も必要としているものは「Gentleman」意識と「Lady」意識であるが、それには先ず、教育の第一線にいる先生方自身と先生をバックアップしなければならぬ。両親たち自身が「Gentleman」精神や「Lady」精神を自覚し、培うことが必要です。

「和」と「絆」

一学年部会長 片倉 登

一学年の生徒の皆さん、そして、保護者の皆様、今年度一学年部長を務めさせて頂きます片倉です。

今年度の一学年保護者会は、「和」と「絆」をテーマとして、活動していきたいと考えております。生徒一人一人が同級生を思いやる気持ち、それがクラスの和となり、そして学年の和に繋がると思います。そこに保護者の和が加われば、絆が生まれ、素晴らしい学年になるものと確信致します。これから、各クラスの役員の方々が中心となり、色々な行事が計画されることと思いますが、生徒そして生徒だけでなく、我々保護者も子供達と一緒に、積極的に行事に参加して頂き、楽しく、明るく、思い出に残る一年間となるよう、保護者の皆様方の御協力の程、よろしくお願い致します。

学年行事

フロンティア

大学に興味津々

一年六組 伊藤 采

大学って凄い！それが私の第一印象です。山大を見学すると未知の世界が広がりました。工学部の中にも専門の科があり、物作りへの探求心があふれている事に感銘を受けた所です。

また、大学進学への道・意味・奥深さを説明して頂き、仲間と共に将来の自分形成について考える事が出来ました。これからも努力あるのみ！と確信したのです。

そして何より、学食最高！大学は何だか面白そうです。とても有意義な一日でした。



仙台研修

二年七組 芳賀 優亮

私達六月九日〜十日までの二日にわたって、仙台研修に行ってきました。東北大学・宮城教育大学・東北化学園大学、また代々木ゼミナールの四つの施設を見学させて頂いていただきました。大学ならではの雰囲気、そして学問の多様性と奥深さにふれることができ、とても充実した研修となりました。今後、この研修を生かし、自分の進路に向けて、しっかり考え、本物の「力」をつけていきたいと思えます。

庄内旅行

三年六組 我妻 直輝

この庄内旅行では、普段米沢では体験することのできないことを存分に味わってきました。

特に初日の海釣りや舟下りなどは、初めての体験だったのでとても貴重なものとなりました。海釣りは思っていた以上に難しく、私は一匹も釣ることができませんでした。

今回の庄内旅行では、この他にも数々の貴重な体験をしとても充実した旅行となりました。

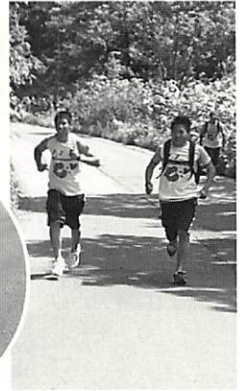
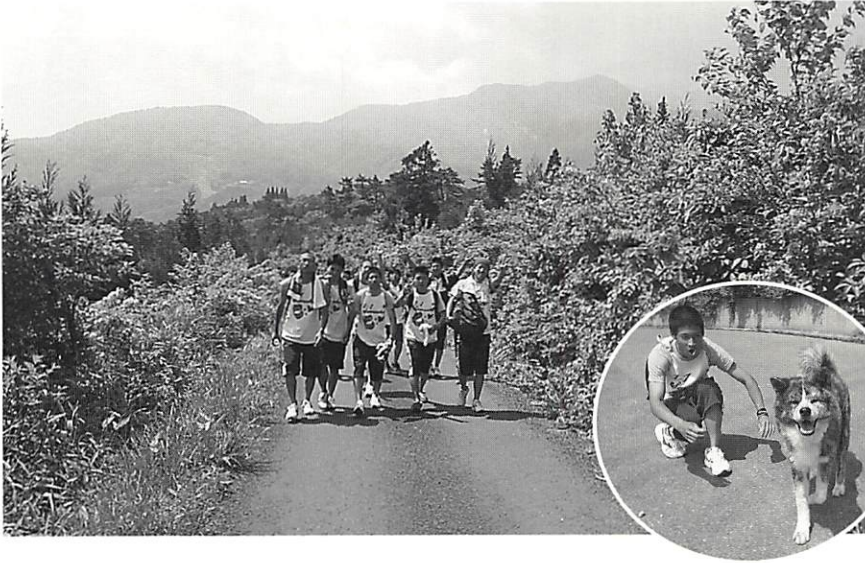


一学年男子

つらいトレッキング

一年一組 金子 拓海

トレッキングでは、約二十キロ歩きました。二十キロは、とても長くつらいものでした。しかし、僕達一年生にとっては、初めての学年行事で楽しい思い出もたくさんできました。特に印象深いのは、最初の方の山登りでした。気温も高く、予想以上に急でもきつかったです。それでも、互いに励ましあったりして山を登りきった事が僕の中で印象です。トレッキングでできた、学年の和を大切にこれから学校生活を頑張りたいです。



学年行事 植樹

一年二組 阿部 尚斗

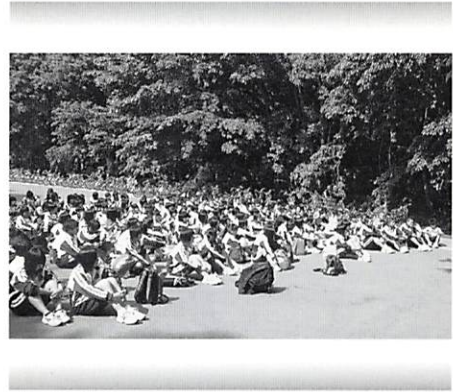
六月十日に学年行事の「植樹」が行われました。今年はこの植樹が最後ということだったので、最後にふさわしい植樹にしなければなと思いました。

作業していると、汗がどんどん流れてきてとても大変でした。何気なく何本も生えている木は、多くの人の作業によって植えられているのだなと思いました。

自分たちが植えた桜が大きく成長して、ピンク色にそまってくれることを願っています。



一学年女子



そこに山があるから ライライライ

一年三組 寒河江希望

六月九日、私達一学年は板谷から南原まで二十一kmを歩きました。初めての行事という事もあって、わくわくしていました。開始早々、私はたくさんの人にぬかされいっつの間にか最後尾にいました。友達や先生と話しをしながら歩いてとても楽しかったです。途中、川が流れていたり林の中だったり、日頃ふれる事のない自然にふれる事ができてよかったです。後半、雨が降り最後まで歩き切る事ができませんでした。みんながわいわいと歩きながらよりいっその絆が深まった一日でした。

学年行事で学んだこと 施設訪問より

一年四組 嵐田真由美



私は初めて老人ホームに行っても貴重な体験をさせていただきました。最初おばあちゃん方と会った時は、緊張がすごかったです。でもおばあちゃんがすごく優しく、私も楽しめました。一番緊張したのは、車イスの運転でした。一つの命を乗せているので、集中しないと危ないので、とても大変でした。私達よりもずっと長く生きている方々が、明るい笑顔で元気で、自分はパワーをもらいました。なかには話せない方もいらっしゃいましたが、私達が歌った時に、笑顔になってくれました。とても嬉しかったです。私はその時すごい時間、そして笑顔です。私達も忘れません。

歩き学んだこと

一年五組 高橋花菜子



私は二十二kmという長い距離を一日で歩いたことがなかったので少し憂うつでした。さらに、当日は暑くなり、正直いやになっていました。でも同じ班の人が「頑張りな」と笑顔で励ましてくれました。自分のことだけで精一杯なはずなのに他の人のこと応援できる人は素晴らしいと思います。ゴールの野球場に着いた時は、安心感と疲れがどつと出てきました。九里とみ先生は毎日のように長い道のりを歩いてどんなお気持ちだったのか少しだけわかったような気がします。志が高ければ、これだけの苦勞をものりこえることができるのかと思います。私も志を高く持って苦勞を乗り越えていきます。一生忘れることのできない体験となり良かったです。

トレッキングを終えて

一年六組 樋口小百合

六組は先頭を歩きました。自然がたくさんで空気もおいしくて気持ちよかったです。最初から最後まで明るく元気にしゃべりながら歩きました。最後のほうは足が痛くなり、とみ先生はこれだけの長い道のりを雨の日も風の日も歩いたのだと思うとすごいと感じました。今回のトレッキングは辛かったけど、楽しかった思い出になったのでよかったです。



二学年 登山

男子 9/9~10 東吾吾山

学年行事を終えて

二年一組 大友 椋太

今回の学年行事を通して、私は二つのことを学びました。

一つは、準備の大切さです。

前もって山に対する知識・登山マナー、持ち物などの準備を怠ると危険ということを学びました。

二つ目は協力することの大切さです。厳しい自然を前にして挫けそうになっても仲間の支えや協力があつたからこそ登山を達成できたのです。

今回の学年行事で得たことをこれから活かしていきたいと思えます。



登山で得たもの

二年二組 小山 諒

今回の登山を通じて私は、大変貴重な体験ができたと思っています。それは、悪天候など困難な状況のなかで周りのみんながサポートしあいながら目的を達成することで、連帯感を実感できたからでもあります。

登山に行く前は、体力的に心配な部分もありましたが、グループの仲間同士で声をかけ合ったりして、お互いにフォローし合いながら最後まで登りきることができ、最初考えていた不安は解消されました。

とてもいい体験ができたと思っています。



登山

二年三組 田中 昇吾

僕が二学年の学年行事で感じたことは、自分自身の体力の低さと自然の雄大さです。山の中では自分の家から十分ほどで到着するコンビニも山からは何時間もかかってしまいます。ですが、そのような不便な山ですが、それでもその登山で、頂上まで行くなかで、今まで話すことの少なかつたクラスメイトとたくさん話したり、その他のクラスの人たちとも、協力することができました。その点については疲れた以上に、とても良かったです。

そのことから、この学年行事はやはりやって良かったと思えました。



二年学年行事

女子 6/9~10 猫魔ヶ岳

山登り

二年四組 清井 実来

六月九・十日に学年行事で猫魔山に登りました。

最初は最後まで登れるか不安でいっぱいでした。川や崖、あの険しい山登りは忘れられません。でも仲間と協力して登りきれた時は達成感と感動で心がいっぱいになりました。

この学年行事を通して、みんなになにかを成し遂げる喜びを肌で感じることができました。また行動の面である時間厳守なども改めて学ぶことができました。

そして、普段の生活に活かしていきたいと思います。

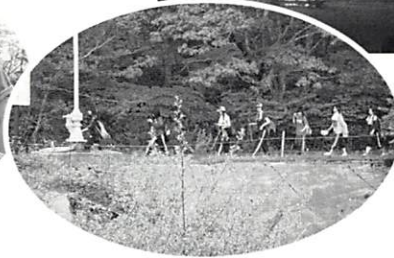
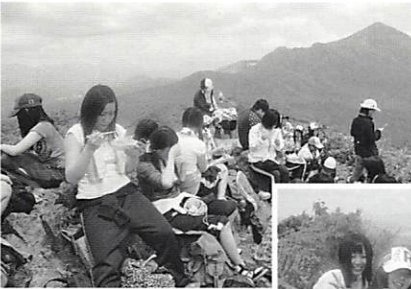


笑顔で全員完歩!

二年五組 鈴木 彩夏

私達五組は、クラス目標でもある「ニコニコの五・V・I・Pに完歩!」という登山目標をたて、猫魔ヶ岳登山をスタートさせました。とても険しい道でしたが、弱音を吐いていた人も自分に勝ち、周りの人と支え合って、五組らしくパワフルに登山できました。目標通りに全員で完歩できたことを、これからの行事にも繋げていきたいと思えます。

新しいメンバーと仲を深められた、充実した二日間でした。



自然が私達に教えてくれたこと

二年六組 鈴木 優実

不安と楽しみが入り混じって挑んだ登山では、一人一人が互いに協力して無事全員登りきることが出来ました。今回登山に参加出来ない人もいましたが、その人の分まで登りきってきました。自然の美しさを感じると同時に恐さもあることを知る機会となりました。

ホテルの方々が、温かく出迎えて下さり、ゆっくり疲れを取る事が出来ました。火の集いでも各クラスの団結の強さを一層深めた時となりました。

今年最初で最後の学年行事は、たくさん学ぶことがありました。逆に自分達にたりない部分も見つける事ができました。一つ一つをこれからの生活の中で活かしていかなければと思います。学年行事で学んだことは決して無駄にできないと思った心に残る登山でした。

三年生 庄内旅行

庄内旅行の感想

三年一組 高橋 将太

今回の庄内旅行は、山形の文化と歴史を知ることが目的としていました。その中で私達は、羽黒山に登り途中で五重の塔を見たりして歴史の建築物について学びました。また庄内には慶応大学のキャンパスや先端生命科学研究所があり、唾液でガンの診断ができる研究やオイルを作り出す「オイル生産藻」の研究等を見学しました。歴史だけでなく最新技術も学ぶ事ができ有意義な旅行だったと思います。

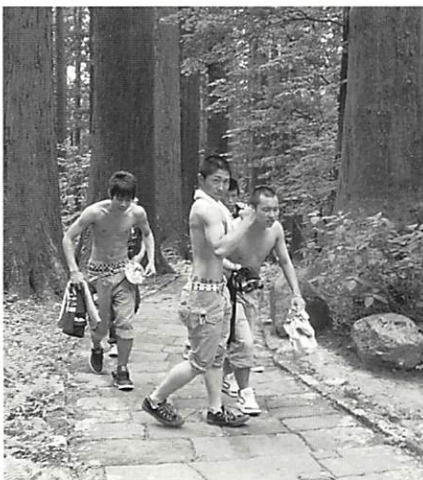


学年行事

三年二組 太田 雅人

僕達二組は寺巡りをしました。寺に行く途中で松尾芭蕉の像などを見て自分達が行っていた場所はとても有名で知られていたと後から知りました。

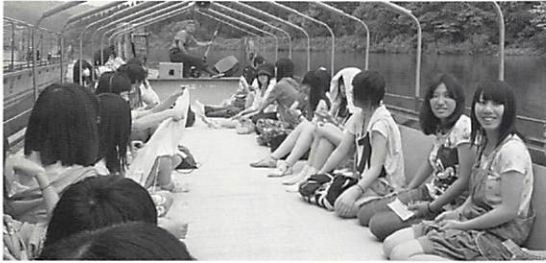
この学年行事を通して、これから就職や進学など忙しくなるけれども、学年行事で皆楽しく遊んでいたのが、ピリピリした感じにならず少しリフレッシュしたと思います。ですが、あまり気楽にはいられません。気持ちを切り換えてさらに勉強などを頑張りたいです。



庄内旅行を通して

三年三組 野口 咲

私達は今回、震災の影響で節電や節油が叫ばれる中、エネルギーを意識する機会としてウインドム立川の風力発電所や酒田火力発電所に行つて来ました。そこでどのようにして電気が家庭へ運ばれて来るのかを知ることが出来ました。また、さくらんぼ狩りにも行つて来ました。自然の恵みを直に感じる事が出来ました。今回の庄内旅行では普段体験出来ない事があり、とても良い経験になりました。三年生は進路のことを考える時期になります。が、それは違うと思います。良い思い出がありました。



庄内旅行

三年四組 山田 真耶

私たち三学年は、六月九日・十日に山形県の北にある庄内地方へ旅行に行ってきました。

私は部活動の県大会の会場も庄内だったので、またか〜と思っていましたが、部活動で行くのとクラスの仲間達と行くのでは、全く違いました。部活動の仲間も一生ものだけど、クラスの仲間も一生ものだけ、切実と感じました。友達って本当にいいものだと感じました。

私たち三学年は、これからが勝負です。自分の進路を自分でみつけて自分で進まなくてはなりません。辛いのは全員一緒です。一人一人が進路実現できれば良いと思います。私も悩んで、自分の進みたい道歩んで行きたいです。



最後の学年行事

三年五組 色摩ともみ

三年生最後の学年行事ということで、庄内旅行に行ってきました。庄内旅行では、実際に松尾芭蕉が登った羽黒山を登ってきたり、最上川を舟下りしたり、自然豊かな体験を経験し、自然の偉大さを改めて感じました。

学校生活残りわずかな日々、このような行事を通して、友達との思い出が作れたことは、一生心に残る大切な宝物です。



本校の災害時の対策について

笹原 裕 一

一、平成二十三年三月十一日十四時四十六分「東北地方太平洋沖地震」発生

当日、一年生は二年から始まる「課題研究」の指導で各自のテーマに分かれて新校舎の教室で学習中でした。二年生は放課となり部活動や帰宅など様々でした。震度五強の揺れが発生すると、放送や教室にいる教員により生徒には直ちに机の下に頭を入れるなどとして、頭部を保護するように指示しました。校舎の破損もなく、また、新校舎は建築基準法の耐震基準をクリアしていたこともあって、揺れが収まった後、新校舎に生徒を集めて待機させ、校内や米沢駅や南米沢駅にいる生徒の帰宅について対応することとしました。JRは不通になっていましたので、駅には職員を派遣して保護者と連絡の取れない生徒については学校に戻るよう指示をしました。

本校では以前から災害対策カードを記載させていますが、そのカードにもとづき(一)家が近い生徒については帰宅する。(二)学校の近くに親戚等がいる場合はそこに行つて保護者の迎えを待つ。(三)保護者と連絡が取れるまで学校で待機する。の三つのケースに分けて保護者と連絡を取らせて生徒の帰宅指導をしました。また、どうしても連絡の取れない生徒については、学校のスクーターバスや職員の自家用車で送り届けました。

二、本校の災害時対策について

災害対策カードの裏面に、家庭で確認している災害時の対策(連絡の取り方など)について記載する項目があります。ご家庭で確認作業を行っていたということが、今回の大地震では大いに役立ったと考えます。また、本校では年に二度災害訓練を実施しています。四月は火災発生を想定して、九月は地震とその後の火災発生を想定しての訓練です。そ

の訓練の成果が今回の地震で生かされたと評価します。

しかし課題も見つかりました。携帯電話は通じるものとの前提でしたが、残念ながら今回の震災ではあまりあてにはなりませんでした。今回の震災では、山形放送のラジオ番組や本校のホームページを通じて震災後の家庭での生活についてや学校での部活動、一・二年度の修了式などについてお知らせをしました。生徒はあまり混乱なく学校の指示に従って行動していたと思いますが、生徒の安全がどのように確保されているのか、生徒の安否情報をどのようにして確認することができるのか。学校からの情報提供や保護者や生徒からの情報の把握など困難を感じた場面が今回の震災では多々ありました。

六月には大雨で米坂線や奥羽本線フラワー長井線が不通になりましたが、これからも台風や豪雪など自然災害の発生が予想されます。自然災害だけでなくさまざまな突発事故も考えられます。保護者の皆様が生徒とともに緊急時にどのように対応するのか、普段から話し合っていることがいかに大切なことか、また、学校もその情報を共有することの大切さを改めて認識しております。

編集後記

東日本大震災のため、発行が遅れました。時間のない中、慣れない中、先生・広報委員の方々編集作業にご協力頂き、ありがとうございました。

ある新聞のコラムに防災教育について書いてあった。「いざ、災害が起きたときに自分の命を守るか否かは、究極的には自分の判断と行動にかかっている。災害時には、とっさの判断が生死を分けることが少なくない」とありました。知識としてではなく、災害に対する姿勢を学びたいものです。(山田 勝)

P T A活動に対して
のご意見・ご要望は、
0238-22-0091
までお寄せ下さい。